

# 協創推進の取組み状況

(令和8年2月時点)

# 次第

## 1 これまでの取組み状況の共有

### (1) 地域で「協創」を実現するためのしくみ・しかけづくりについて

- ① 協創職員制度 <協創サポーター>
- ② 地域協創市民活動事業補助金「ツナたま補助金」
- ③ 中間支援機能を担う団体による伴走支援
- ④ 多活動マッチング型の地域プラットフォーム <自治推進委員会中間答申>
- ⑤ 多世代共生型コミュニティ施設の整備
- ⑥ 地域共助が可視化できるツール（②と関連）

### (2) 総務常任委員会の視察・勉強会について

(1) 地域で「協創」を実現するためのしくみ・しかけづくりについて

# 多摩市の「協創」の取組について

令和6年4月  
改正自治基本条例施行  
協創推進室設置

## 協創

とは  自治基本条例に盛り込みました

**多世代の参画**

- 子どもたち（小中学生）
- 若者（高校生、大学生、社会人）
- 現役世代・子育て世代（30代～50代）
- シニア世代（60代～）



**多分野の協働**

- コミュニティの醸成、地域の活性化
- 子育て、高齢、障がい、生活困窮者対策
- 教育、青少年の健全育成
- まちづくり、環境との共生



多世代にわたる参画  
多分野における協働

が創出されることで、

 誰もがつながり合える(多世代共生型)コミュニティ

が生まれ、これが広がりをもつことによって、

様々な地域課題の解決 +  
新たなまちの魅力や地域の価値が創造

されること

市の執行機関による必要な環境整備 (地域で協創を実現するためのしくみ・しかけづくり)

3つの視点

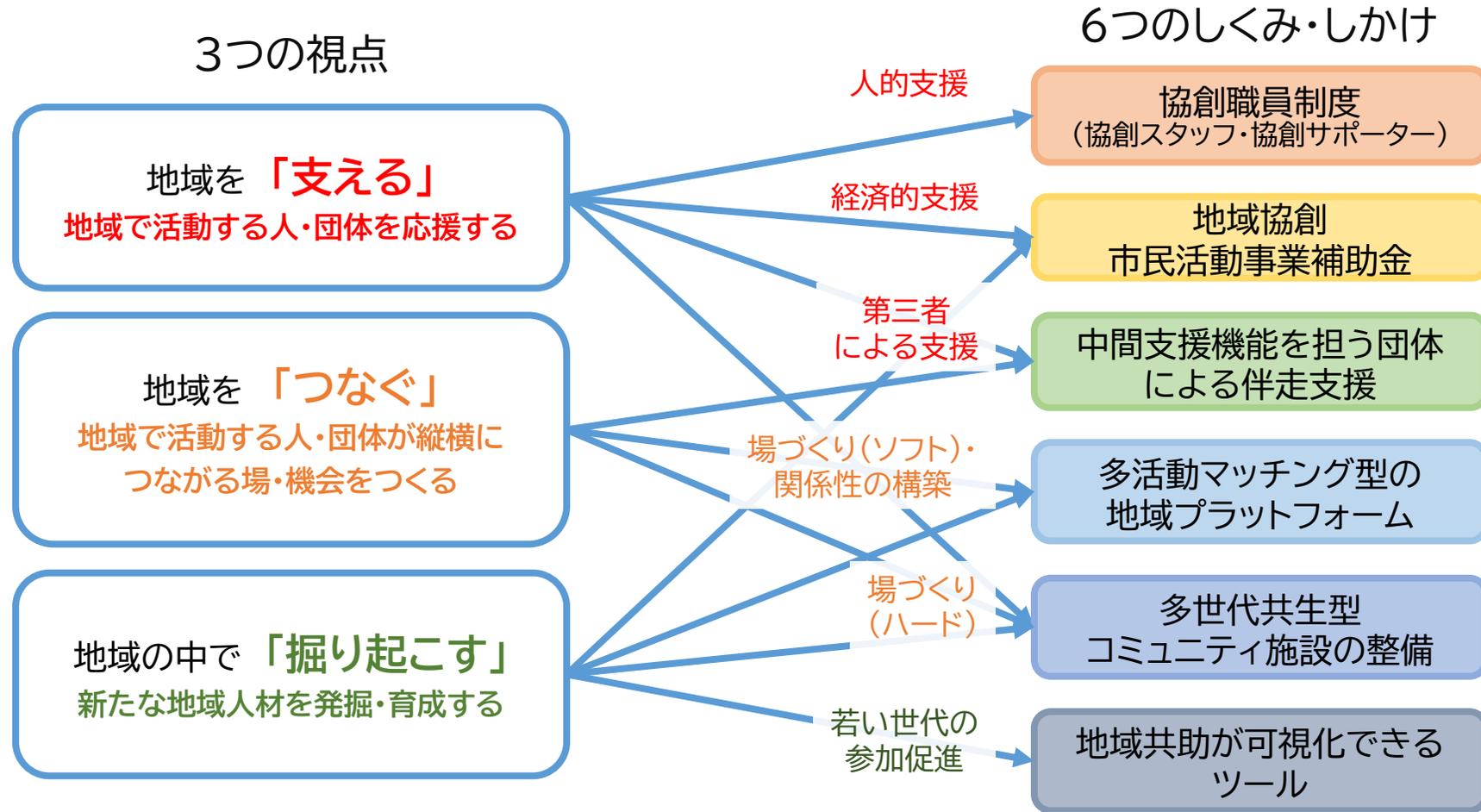
地域を「支える」

地域を「つなぐ」

地域の中で「掘り起こす」

# 「協創」の取組 - 市の進める環境整備（しくみ・しかけづくり）

## 地域で「協創」を実現するためのしくみ・しかけづくり（R7～）



# ① 協創職員制度

## ■協創職員制度

- 協創スタッフ（R6～ 協創推進室職員 18名）
- 協創サポーター（R7～ 若手職員の研修制度）
- 協創シニアサポーター（ベテラン職員の活用）



地域みなさんと一緒に活動して、今後活かせるスキルやネットワークを得る

## ●協創スタッフ

### ■協創スタッフとしての職務内容

- 地域を**支える**（≡アドバイス）
  - 分野横断的な行政側の窓口、情報の収集・提供
  - 関係課と地域との橋渡し、庁内調整
- 地域を**つなぐ**（≡コーディネート）
  - 地域の会議に参加し、関係づくり
  - 団体間、人同士をつなぎ、ネットワーク形成
- 地域の中で**掘り起こす**（≡プロデュース）
  - エリアミーティングの開催等で新たな人材発掘
  - 地域カルテ、地域ビジョンの策定を通じた人づくり

## ●協創サポーター

### ■協創サポーター研修制度（若手職員）

- 若手職員の研修として、地域のイベントや事業への参加、支援を通じて、市の職員としてのスキルアップ、能力育成を図る  
（コミュニケーション能力、ファシリテーション能力）  
⇒令和6年度は公募職員による試行（11課17名）  
⇒令和7年度は継続10名と2年目全職員（本年度2年目34名）

## ●協創シニアサポーター（構想中）

- 役職定年を迎えた管理職経験職員のキャリアを地域で活用検討

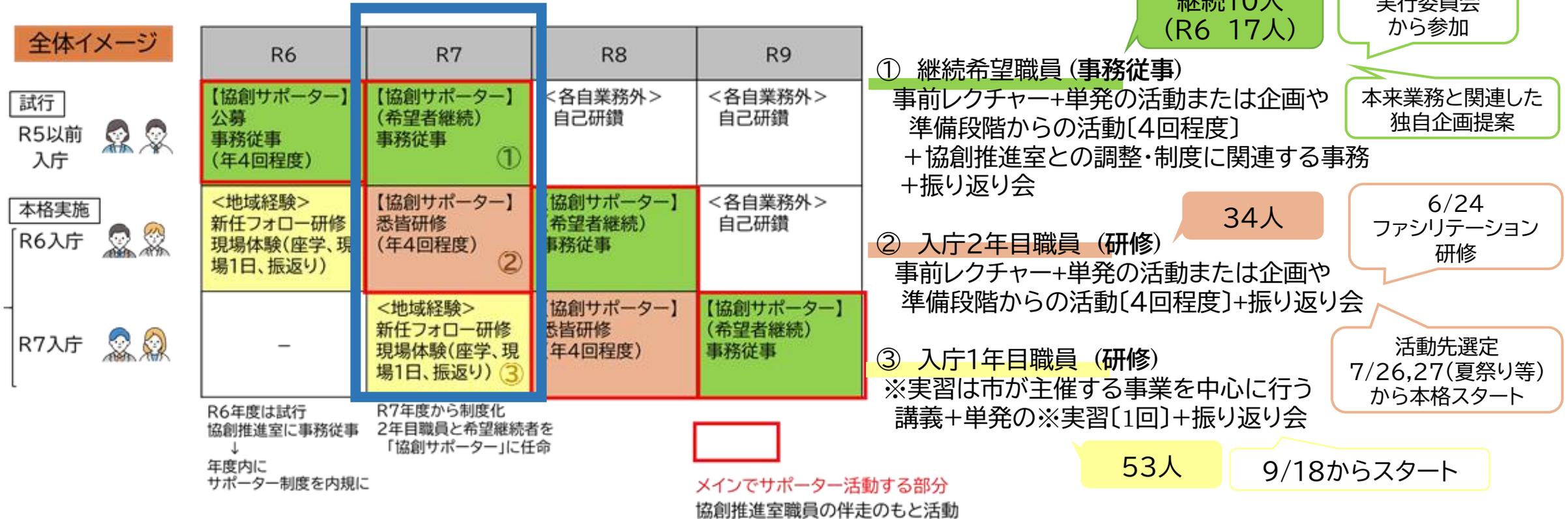


組織で得たスキルやネットワークを地域に活用して協創の実現に貢献

# ① 協創職員制度

## ● 協創サポーター

- ① 継続希望職員（令和6年度に協創サポーターとして活動し、令和7年度も活動を希望する職員）
- ② 入庁2年目職員（令和5年10月、令和6年1月、4月入庁職員）
- ③ 入庁1年目職員（令和6年7月、10月、令和7年1月、4月入庁職員）

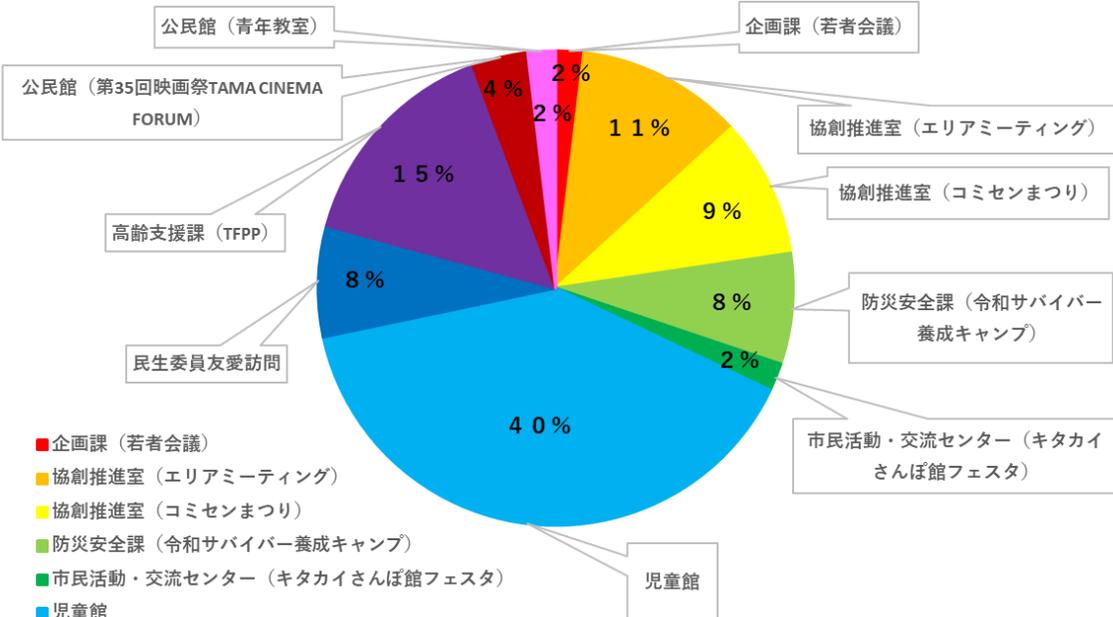


※いずれも、本来業務に影響のない範囲とし、勤務時間内での従事とする。  
 (平日夜間の活動については、特例勤務などで通常の勤務時間をずらすことに対応する。週休日の活動となる場合は、振替休日を指定。振替は半日か一日単位でしか指定できないため、活動時間によってやむを得ず半端になった時間については、時間休を充てるか、受講報告書の作成や振り返り等、協創推進室が指定する活動や作業に充てることとする。)

# ① 協創職員制度

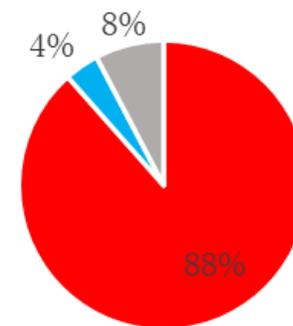
## ■1年目実習（座学＋年1回実習。53人中20人が多摩市在住）

入庁1年目の研修先



### 目標（右グラフ:目標が達成できたか）

- ・地域の方々と積極的に**交流**する。
- ・多摩市・地域のことを**知る**。地域課題について**考える**。
- ・地域課題に対して地域住民・民間・行政がどのように協力し、課題解決に取り組んでいるかを知る。



■ はい ■ いいえ ■ その他

### コメント

- ・実習先でどんなことを目的・目標に事業を実施しているのか**知ることができた**。
- ・**普段の業務で関わらない地域の方々と交流**ができ、地域や事業の課題について考えることができ、有意義だった。
- ・実習を通じて市民と**直接関わる現場を体験**できた。**市民目線**で考える機会になった。
- ・実際に現場で市民の**実情**や求めていることを知ることができ、**市民と対話**ができる機会を得られることはとても貴重だと思う。
- ・自分の所属課以外の業務や役割を理解でき、市役所業務の**多様性**を再認識できた。
- ・他部署や先輩職員との交流が生まれた。

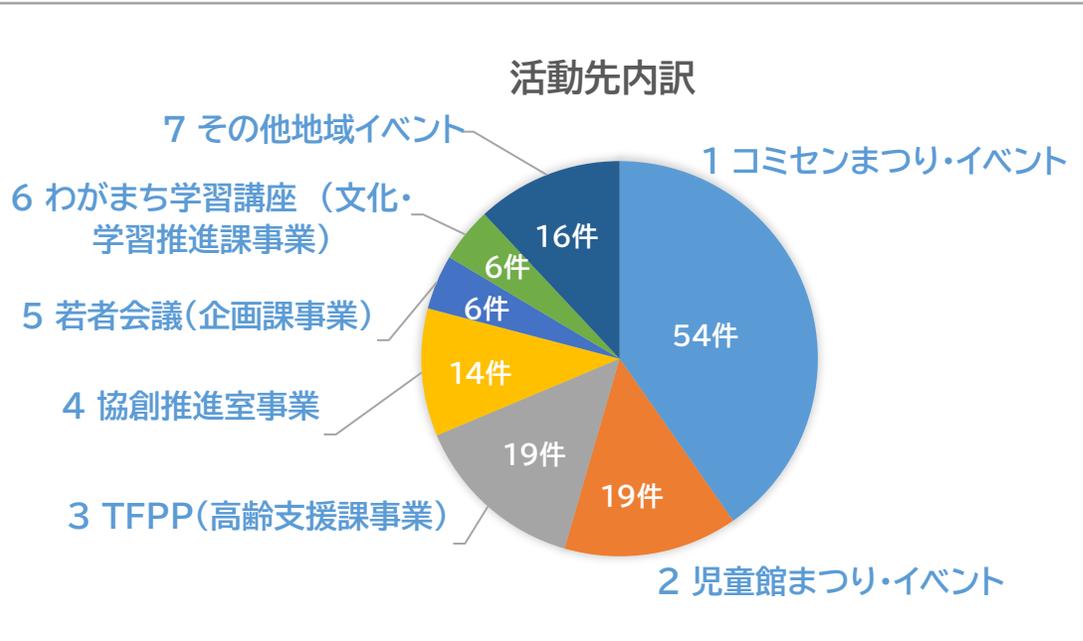
### 今後への期待

- ・多摩市について**もっと知れる**取組みや、他部署の事業にも参加したい。
- ・場所によって関わる市民の層や把握できるニーズがちがうと思うので**様々な場所を経験**したい。
- ・多摩市の様々な地域に行き、その**地域の特色**を実際に感じたい。
- ・来年度の協創サポーター研修でも継続して関わりたい。

# ① 協創職員制度

■2年目研修（原則4回活動。34人中9人が多摩市在住）

約8割(34人中27人)が、4回の活動のうち複数回、連続性のあるイベントへ参加



## 気づき、得られたこと

1. 普段の業務では知れない多摩市のことを**知る**ことができた
  - ・地域団体や多主体との連携状況や行政・他部署の役割理解
  - ・地域主体の交流事業の意義やコミュニティ施設の機能理解
  - ・人員・負担課題、参加状況課題発見
2. 地域で活動する人と**良い関係を築く**ことができた
3. 地域に**貢献**できた
4. 自身の**能力向上**(コミュニケーション、ファシリテーション等)ができた
5. **業務に関わる知見やネットワーク**を得ることができた

■継続サポーター職員(10人。令和6年度手上げ)

- パターン1 : 昨年度参加したイベントへの参加(1.2年目職員のつなぎ役)
- パターン2 : 実行委員会へ(企画段階から)の参加
- パターン3 : 持ち込み企画の実践 例:ランタンフェス、児童館まつりへの出店
- パターン4 : 活動の手引きやルールの検討



# ① 協創職員制度

## ■参加してみたの課題・改善点（年次共通）

### 課題・改善点

- 研修全体
  - ・意図や活動のねらいがよりわかりやすくなると良い
  - ・実習先によって研修時間にばらつきがあった
  - ・実習内容・時期によって人員の配置を考慮してほしい
- 事前の情報提供など
  - ・事前に実習先の内容や目的を明示してほしい
  - ・実習先や地域のことを調べる時間が短かった
  - ・実習先や地域のことについて、先輩や関係部署に話を聞く機会があると良い
  - ・詳細連絡が直前。活動終了時間が不明瞭
- 活動内容について
  - ・時間や内容に差があり、やりがいに差が出る。
  - ・内容に困惑(力仕事が多かった。時間を持て余した。休憩が取りにくかった。)
  - ・準備等の一連の流れに参加できればコミュニケーションがとりやすかった
  - ・単に表層的に活動を手伝うだけでなく、「協創」について課題の気づきや考えが深まるような研修ができるとうい
  - ・お金を扱う業務は、交代制などの配慮があると安心
  - ・現場での作業手順の説明がわかりにくかった



### 改善方策

事前の集合研修での  
レクチャー内容の工夫

事前の集合研修、  
事後の振り返り会を  
年次を越えた場に

地域との関係性、連続性を  
重視し、2年目研修は  
連続参加を基本とする

2月～3月に各年次の振り返り会を実施

## ② 地域協創市民活動事業補助金 「ツナたま補助金」

### 【概要】

- 総合計画『**施策C-3 多世代共生型のコミュニティづくりの推進**』のため、【主な施策の方向性】の1つである、「**新たな地域人材を発掘・育成するしかけづくり**」に取り組み、【成果指標】として設定した「**様々な取組みによって、地域の中で新たな事業(プロジェクト)**」を生み出していく必要がある。
- これまでのエリアミーティングなど地域の取組みでは多種多様なアイデアが市民から出される一方で、実際に実現するための経済的支援がないことが課題となっていることから、**新規の取組みや新しい参画者を増やしていくためのしかけ**が求められている。
- これらのことから、本補助事業を立ち上げ、**既存の団体の活性化や新たな担い手の掘り起こし**を通し、市民主体の地域づくりを一層推進する。

地域共助が可視化できる  
ツール

### 【対象事業】

**[テーマ設定型]** 分野横断的な地域共助の可視化につながる事業 (50万円×1件)

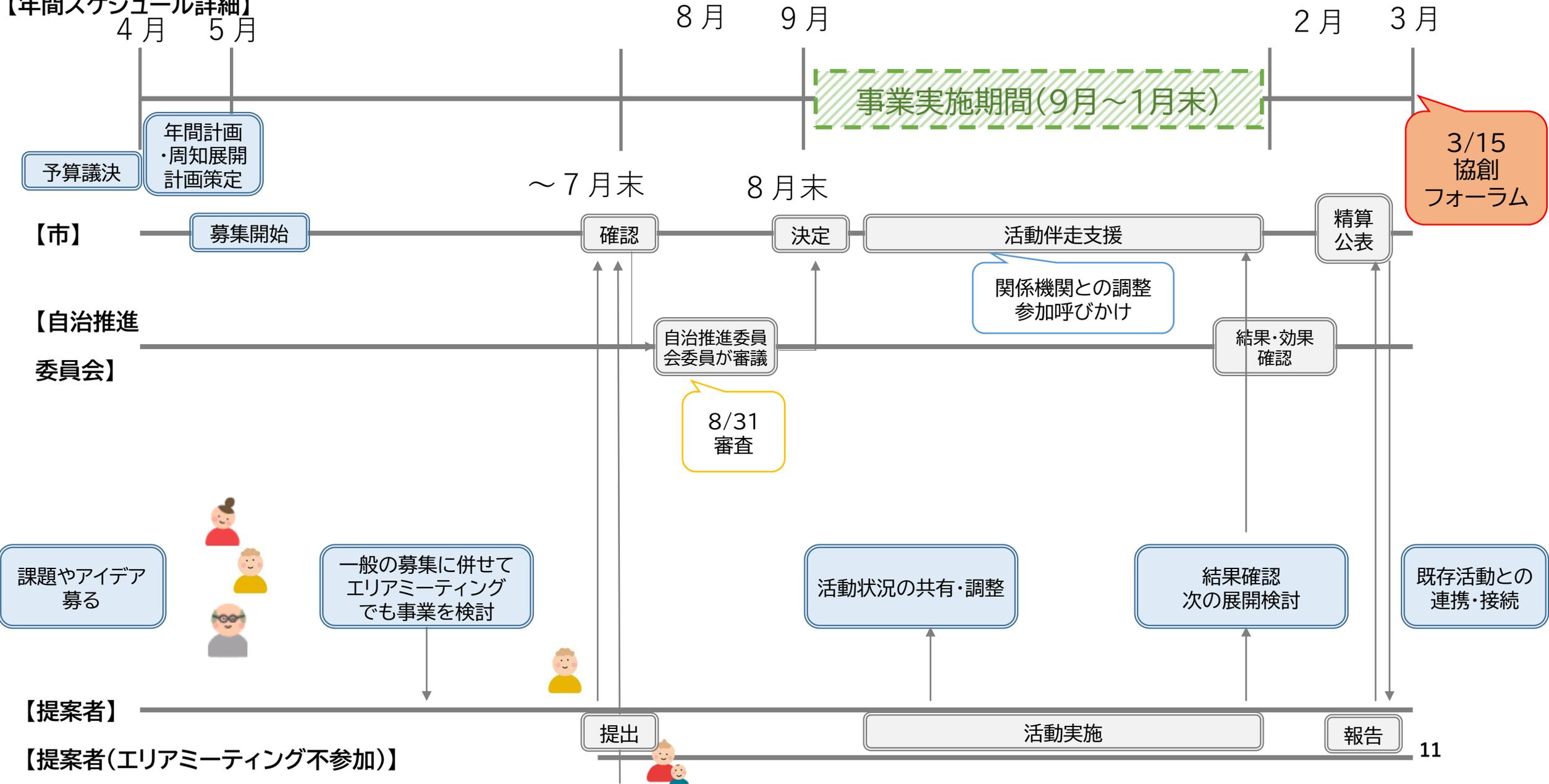
**[市民発意型]** 多世代・多分野の地域コミュニティ形成につながる新規事業 (5万円×5件)

協創職員制度  
(協創スタッフ・協創サポーター)

中間支援機能を担う団体  
による伴走支援

## ② 地域協創市民活動事業補助金 「ツナたま補助金」

【年間スケジュール詳細】



## ② 地域協創市民活動事業補助金 「ツナたま補助金」



ツナ

補助金

たま

新たなつながりづくりを多摩市が全力で応援！

【募集期間】

6月2日(月) ~ 7月31日(木)

【対象事業】

【ツナコース】 上限50万円 1件(予定)  
分野横断的な地域共助の可視化につながる事業

【たまごコース】 上限5万円 5件(予定)  
多世代・多分野につながるきっかけを新たに創出する活動

■応募

■一次審査

■採択

【ツナコース】

4件



【ツナコース】

3件



【ツナコース】

1件

【たまごコース】

9件



【たまごコース】

7件



【たまごコース】

5件

## ② 地域協創市民活動事業補助金(ツナたま補助金)

|                             | 令和7年度        |               |                                 |   |                          |                |    |                    |
|-----------------------------|--------------|---------------|---------------------------------|---|--------------------------|----------------|----|--------------------|
|                             | 8月           | 9月            | 10月                             | 11月   | 12月                      | 1月             | 2月 | 3月                 |
| (つながる多摩)<br>つなたま掲示板         |              |               | 掲示                              | 掲示<br>11/10中間報告   | 掲示                       | 掲示             |    |                    |
| 安心してきてね。多胎児、年子予約休憩室         |              |               | 10/25(土)多摩センターハロウィン(1日目)にて予約休憩室 |   |                          |                |    |                    |
| 地域のだれもが「やってみよう！」ができる場所      |              |               | 10/4(土)星を見る会                    |   | 12/7(日)マルシェ交流イベント(子ども関連) | 1/17(土)新年イベント  |    |                    |
| 地域の音楽愛好家を結ぶ、オープンマイクイベント     | 審査           |               | 10/26(日)オープンマイクイベント             |   |                          |                |    | 3/15(日)協創フォーラムにて報告 |
| 諏訪・永山れきし散歩                  |              |               |                                 | 11/8(土)まちあるきイベント実施                                      |                          |                |    |                    |
| 地域活動の必要性の理解を求めて-自己変容と価値観共有- | 9/28(日)映画上映会 | 10/26(日)映画上映会 |                                 | ・11/8(土)東寺方秋まつり(0円ショップイベント)<br>・11/30(日)勉強会(トランジションタウン) | 12/14(日)地域通貨ワークショップ      | 1/18(日)ワークショップ |    |                    |

中間報告  
○周知手法として効果を実感  
×掲示板活用の周知が課題

やってよかった。参加者の笑顔が嬉しい



職員の伴走のおかげで、関係部署と課題感を共有し、有意義な情報交換ができた

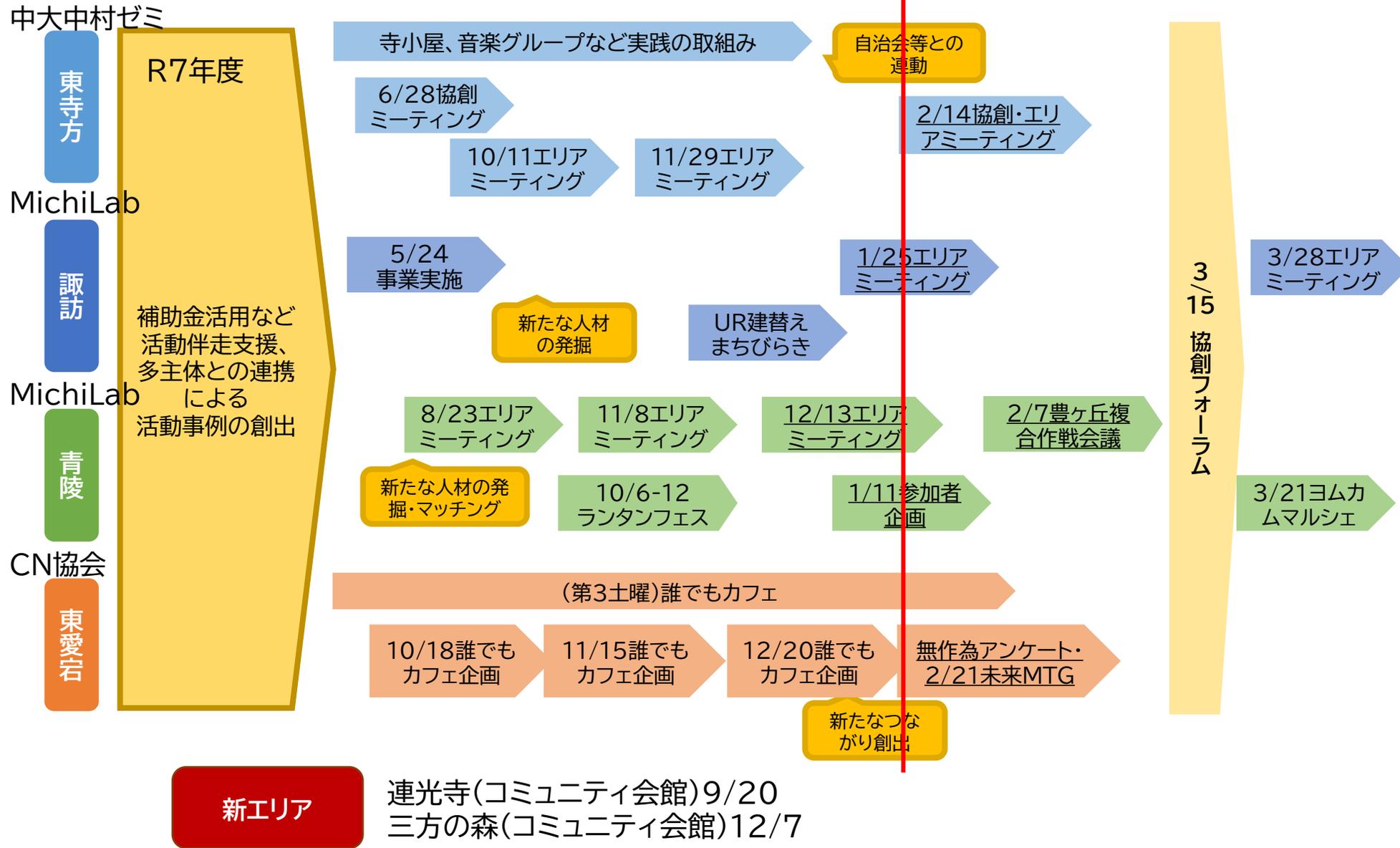
10/25 ハロウィン 予約休憩室

地域のニーズや課題が知れた



11/8 東寺方秋まつり

# ③ 中間支援機能を担う団体による伴走支援・ ④ 多活動マッチング型の地域プラットフォーム



1/25エリア  
ミーティング



多摩市の未来について話し合えて、  
とても考えさせられた。  
もっと多摩市や地域を盛り上げていきたい。  
同じ想いの人とつながりたい

12/13エリア  
ミーティング



エリアミーティングを通じて、新たな活  
動が生まれたり、既存の活動に参加して  
くれる若い人材が出てきてもらいたい

1/11参加者  
企画



2/7豊ヶ丘複合作  
戦会議



多様な世代の参加者がいて、  
豊ヶ丘らしい、ここにしかない拠点をつ  
くれたら

## ⑤ 多世代共生型コミュニティ施設の整備

現在の  
状況、整備  
に向けた  
考え方等

R7年度  
実績・  
予定事項

### 豊ヶ丘

整備方針策定(令和7年3月)  
建替え

⇒今後基本計画策定

指定地域共同活動団体の検討

○基本理念

「地域ニーズに柔軟に応え、多世代が集い、学び、つながる、豊ヶ丘の地域拠点」

住民対話を踏まえ検討

- ・施設コンセプト
- ・機能、サービス
- ・運営方法 など

①9/6(48名) ②2/7(37名) ③  
6/6

+10月ランタンフェスでの社会実験

遊び場、滞留空間が効果を発揮。居場所や賑わい空間が欲しいとの声

### 諏訪

現在の施設は老朽化が著しく進行し、耐震基準を満たしていないことから、なるべく早期に、仮施設に移転したうえで、当面の間は、地区市民ホールとして運営。近隣の都営団地建替え、UR団地再生の状況を踏まえ、今後の施設像を要検討。

東京都と、仮施設 移転先整理  
9/9,19住民説明会(計91名)

関係機関との将来施設の検討

予算化検討中

### 東寺方

再編後もコミュニティ施設として整備し、再編後は、既存のコミュニティセンターを補完するコミュニティ会館とする。

地域の人口構成、ニーズに柔軟に対応できるような運営形態の導入についても、地域の意向をふまえながら検討

令和7年度に、住民との対話にて「整備方針」を検討

10/18協議会  
11/29協議会  
1/17中間報告  
2/11協議会  
3/7協議会  
3/21協議会  
⇒最終報告



## ⑥ 地域共助が可視化できるツール

②と関連  
ツナたま補助金 採択事業「つなたま掲示板」  
「東寺方寺小屋」等を通じて  
継続検討

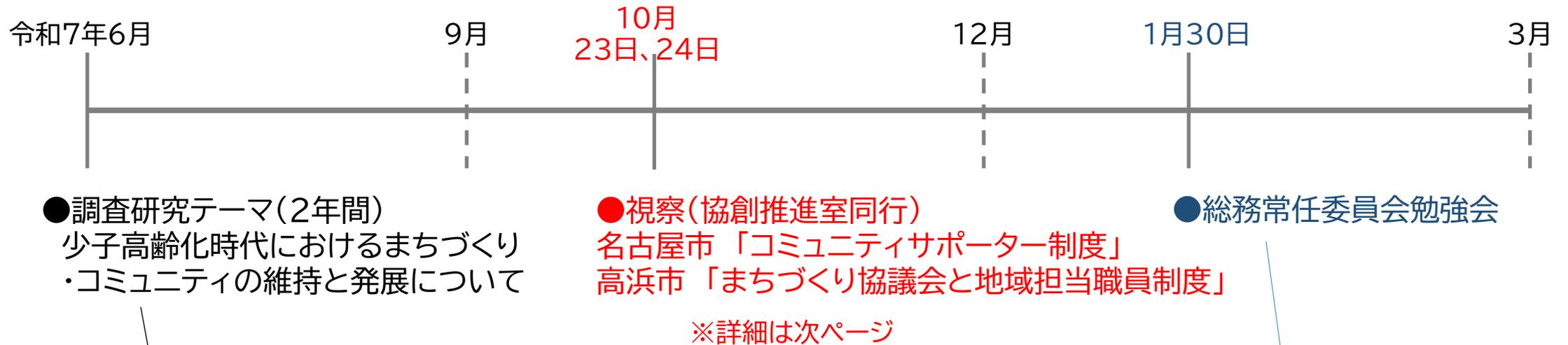
R7.12.14 (15名)  
ワークショップ(地域通貨)



R8.1.18 (30名)  
地域通貨体験イベント



## (2) 総務常任委員会の視察・勉強会について



### 【目的】

- 多摩市でも、少子・高齢化を背景とした「まちづくり、コミュニティ形成」のための担い手不足が大きな課題となっており、その影響は、地域の自治会・町内会や自主防災組織、コミュニティセンターの運営協議会の体制、民生・児童委員の不足などにも及んでいる。
- 市が取り組む解消策である「地域協創」では、既存の自治会、青少協などとの関係など、課題も多い。
- これらの状況をふまえ、市の所管部署や、地域団体などとのヒアリング・懇談などを通じて、調査・研究していく。

- ①視察先の取組みをどう評価するか
- ②多摩市として活かせることは
- ③多摩市の今後の方向性について

## (2) 総務常任委員会の視察・勉強会について

### ●視察(協創推進室同行)

|                         | 10/23 名古屋市「コミュニティサポーター制度」<br>※参考資料2   | 10/24 高浜市「まちづくり協議会と地域担当職員制度」<br>※参考資料3   |
|-------------------------|---|--|
| 担当部署                    | スポーツ市民局 地域振興課   | 企画部 総合政策グループ   |
| 市の概況                    | 230万人16区(1区平均14万人程度)<br>学区267小、町内会5276、加入率66%(10年前比△12.8pt)   | 5万人。5の小学校区。外国人比率10%。第二次産業人口が多い。<br>自治会加入率50%。不交付。平成の大合併を否決   |
| 取組み内容                   | <p>■学区連絡協議会、区政協力員(昭和43年～)<br/>町内会長が区政協力員を兼ね、小学校区単位に連絡協議会を開催<br/>上部の組織として、区単位の連絡会、市全体の連絡会もあり。<br/>自治会加入率は、中心部と郊外部で状況が異なる。<br/>町内会長の負担が大きくなっている。IT化などの支援も必要<br/>※自治法改正、指定地域共同活動団体は把握しているが、未議論</p> <p>■コミュニティサポーター(会計年度)支援員(全市4)相談員(各区1)<br/>町内会の困りごと(地域運営、IT化など)に伴走支援<br/>応募は割とある。職員含めてサポーターと協力して進めている。</p> | <p>■まちづくり協議会(平成17年～ 地域内分権のため)<br/>町内会等单位組織を学区で補完する組織<br/>①市民予算事業 ②地域分権事業(委譲) ③委託事業<br/>※自治法改正、指定地域共同活動団体は把握しているが、今後検討</p> <p>■担当職員(平成20年～ 地域支援+職員力強化)<br/>①特派員 ヨコ割5名チーム(課長級がリーダーで公募若手入れる)<br/>②若手研修(地域に出る)平成29年～<br/>③地域担当職員 令和6年～ ※職員担い手不足(職員数260名)<br/>地域が希望する職員を割り当てているが、結局総合政策G職員が対応</p> |
| 多摩市との共通点、相違点、参考になり得る点など | <p>&lt;共通点&gt;<br/>□担い手不足は共通の課題</p> <p>&lt;相違点&gt;<br/>□多摩市は分野ごとの協議組織であり、形式が異なる<br/>□サポーターは広く市民のサポートというより、既存町内会等の課題対応の支援が中心</p> <p>&lt;参考&gt;<br/>□サポーターや地域向けのIT化の研修や取組み</p>  | <p>&lt;共通点&gt;<br/>□担当職員②は多摩市の協創サポーターと近い</p> <p>&lt;相違点&gt;<br/>□地域分権として市事業の委譲を行う</p> <p>&lt;参考&gt;<br/>□町内会加入者以外にもまちづくり協議会が機能している<br/>□10年単位程度でしくみを見直している<br/>新たな担当職員制度も早速課題が出て、制度見直しも必要かも</p>  |